

平成30年度 卒業期及び学年末・学年始めにおける生徒指導の重点

西部教育事務所

児童生徒が、1年間の生活を振り返り、達成感や充実感をもてたり、4月からの新しい生活に向けて、期待や希望をもてたりできるような指導の充実をお願いします。

《① 卒業期の指導の充実》

- 卒業生、在校生、保護者、教職員、地域の方々など、お世話になった人達に対する感謝の気持ちや未来への願いを大切に卒業式をみんなでつくりあげましょう。
- 自分や友達が、仲間や学級、学校、地域のためにどんな活動をしてきたか振り返る場面をつくり、お互いの行動や取組を認め合ひましょう。



《② 今年度の振り返りと次年度への準備》

- 年間を通して、生徒指導の3つの機能を生かした授業づくりや学級経営ができたかどうか、児童生徒の自己有用感を育むことができたかどうか、学校全体で確認しましょう。
- いじめ、不登校、問題行動等に対して、適切な対応ができていたかどうか学校評価アンケートの結果なども参考にして振り返り、修正が必要な場合は、具体的な改善策を考えましょう。
(SNSの危険性について保護者と一緒に考える場面を年間行事の中に位置づける、特別支援教育の視点からの児童生徒への関わり方について校内研修の中に位置づける、学校いじめ防止基本方針を見直すなど)
- いじめや不登校等にかかわり、配慮の必要な児童生徒が、一人で悩みを抱えたまま春休みに入るものないように、実態把握と課題の解消に向けた対応を休業前に進めましょう。また、学校間、学年間の情報の引き継ぎをしっかりと行い、新しい学年の職員の共通理解や役割分担へと確実につなげましょう。
※「1年間の生徒指導に関するチェックシート」も活用しながら自校の取組を振り返ってください。

《③ 学年始めの指導の充実》

- 自校の生徒指導方針、生活のきまり、気になる児童生徒への支援計画、学校いじめ防止基本方針などを全職員で共通理解しましょう。
- 望ましい人間関係を築くための学年行事や学級活動等を取り入れ、学年・学級経営の充実を図りましょう。
- 楽しい学校生活の過ごし方について児童生徒が考える機会を設けるなど、希望や意欲をもって新年度がスタートできるような指導を学校全体で進めましょう。

～ 不登校対策の充実に向けて ～

自校の不登校対策について振り返り、次年度に向けた体制づくりを進めていきましょう。

ポイント1 自校の不登校児童生徒の実態について再確認し、対策を考える。

＜ 確認例 ＞

4月からの欠席者数（月6日以上）を月ごとに比べ、増加率や増加する傾向のある月、不登校発生率（全校児童生徒に対する長期欠席者の割合）や児童生徒の欠席日数などを明確にする。

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
欠席者数	7名	8名	8名	5名	6名	10名	6名	6名	5名	6名	3名

＜ 対策例 ＞

完全不登校の児童生徒、30日以上長期欠席児童生徒、短期的に欠席する傾向のある児童生徒、別室登校児童生徒などを確認し、それぞれの児童生徒に合った支援の在り方を考える。（家庭訪問で児童生徒や保護者との関係を深める、適応指導教室への通級につなげる、別室登校での活動につなげるなど）

ポイント2 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図り、具体的支援を進める。

＜ 支援例 ＞

教育相談主任とスクールソーシャルワーカーが連携を図る際、気になる児童生徒に対する支援について担任からのお願いなどを一覧表にまとめたものを活用するなど、役割分担を明確にしなが、効率的かつ効果的な支援が進むような工夫をする。

